

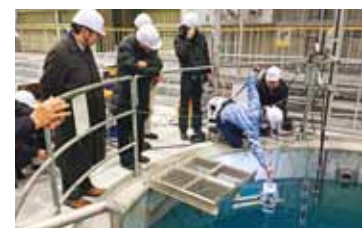
震災後
「もうだめか…」と
うつむきかけた
私と従業員

わたなべ こうき
渡邊 光貴

株式会社タカワ精密 取締役

昭和56年（1981）、南相馬市生まれ。
明星大学電気電子工学部卒業後、東京のITソフトウェア会社に
エンジニアとして勤務。2010年にUターンし、タカワ精密入社。
2017年から水中ロボット「ラドはたる」開発に着手。

私たちの会社は、先代から産業機械の受注開発及び生産を行っております。
現在は研究機関や企業と連携し、高放射線量の環境下でも作動する
「耐放射線性」、水中での姿勢を保つ「半自律制御」、小回りのきく「小型化」を
特長とする小型水中探索ロボット「ラドはたる」の研究開発に取り組んでいます。
求められるスペックをつかみ取るまでは試行錯誤の日々が続きます。
そんな中、2019年度に1号機が完成、
さらに今はアップデートした後継機を開発中。
ロボット開発のきっかけは、東日本大震災間もないある日、福島大学の
一研究室から調査のための水中ロボットがほしいとの照会が始まりました。
開発に必要な資金は県の補助金を申請、おかげで東京電力福島第一原子力発電所の
原子炉格納容器の中を探索する水中ロボット開発に着手できたのです。
地元南相馬市は津波被害があまりにも大きく、失ったものは計り知れません。
そんな場所で経験したことのない世界にチャレンジすることは、
震災後「もうだめか…」とうつむきかけた私と従業員の意識を変えました。
今は、思いを同じくする仲間と出会い、地域に貢献したい気持ちも高まって
ロボット開発の意義の大きさを感じています。



JAEA 橋本遠隔技術開発センターの
ロボット試験用水槽にて「ラドはたる」試験の様子